

授業概要(シラバス)

新潟子ども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	2学年	開講期	後期		
科目名	社会福祉論	授業形態	講義	単位数	2単位		
担当教員	中村 真治	実務経験の有無		○			
実務経験教員の経歴	介護支援専門員・地域包括支援センター職員・他大学での勤務						
授業のねらい (到達目標)	保育者の視点から、現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷及び、社会福祉における子ども家庭支援の視点、制度、方法などについて学ぶ。						
授業概要	子ども家庭福祉との関連の中で、望ましい保育者となるために、社会福祉の意義や歴史の変遷、その運営の制度や技術について理解を深める。						
テキスト	「社会福祉論」 姫路大学						
授業計画	第1回	オリエンテーション					
	第2回	社会福祉の理念					
	第3回	社会福祉の歴史の変遷①					
	第4回	社会福祉の歴史の変遷②					
	第5回	社会福祉の制度と法体系①					
	第6回	社会福祉の制度と法体系②					
	第7回	社会保障と関連制度					
	第8回	社会福祉行財政					
	第9回	社会福祉施設					
	第10回	社会福祉の専門職					
	第11回	少子・高齢化社会					
	第12回	地域福祉					
	第13回	ソーシャルワーク①					
	第14回	ソーシャルワーク②					
	第15回	まとめ					
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度		総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠
				50%	25%	10%	15%
	上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する						

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども発達学科	実施学年	2学年	開講期	後期		
科目名	教育課程論	授業形態	講義	単位数	2単位		
担当教員	金子 直也	実務経験の有無		○			
実務経験教員の経歴	新潟市の公立保育士として7年間勤務。子どもの主体性を育む関わり、実践的な保育技術、子ども一人一人の発達を捉えた計画作成、子どもの姿に合わせた専門知識の修得、修得した知識を基にした環境の見直しや保育の実践を行う。						
授業のねらい (到達目標)	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園教育要領や保育所保育指針等の変遷を知り、教育の課題や背景を理解している。 ・教育課程の作成手順や作成上の留意点を理解している。 ・保育の評価や具体的なPDCAサイクルを理解している。 						
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児教育や保育における教育課程、全体的な計画の意義と役割を学ぶ。 ・子どもの発達や学びを繋ぐ幼児教育と小学校教育の円滑な接続、連携の在り方を学ぶ。 						
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・豊岡短期大学「教育課程論」 ・文部科学省「幼児の思いをつなぐ指導計画の作成と保育の展開」 						
授業計画	第1回	授業の目的と概要 教育課程・全体的な計画の意義と必要性					
	第2回	教育課程の在り方、編成の手順と方法					
	第3回	全体的な計画の在り方、編成の手順と方法					
	第4回	長期・短期の指導計画					
	第5回	計画作成演習					
	第6回	計画作成演習					
	第7回	計画を実践する上での配慮事項					
	第8回	幼稚園教育要領の変遷					
	第9回	日本における教育課程の変遷					
	第10回	保育所保育指針の変遷					
	第11回	日本における保育課程の変遷					
	第12回	危機管理保育のカリキュラムの意義と必要性					
	第13回	学びを繋ぐ幼・保・小連携カリキュラム					
	第14回	評価の仕方・PDCAサイクル					
	第15回	教育課程・保育課程をめぐる諸問題					
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価: 課題提出物の状況・確認テスト・授業態度		総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠
				50%	25%	10%	15%
上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する							

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども発達学科	実施学年	2学年	開講期	後期		
科目名	教育方法論	授業形態	講義	単位数	2単位		
担当教員	曾根原 和明	実務経験の有無	○				
実務経験教員の経歴	小学校教員として12年間勤務し、学級担任として児童の発達段階に応じた指導法や学級経営を実践してきた。ICT機器の活用、多様な教材の工夫、学習形態の工夫を通して、児童の主体的な学びを引き出す授業づくりに取り組んできた経験を有する。こうした現場での実践を基に、本授業では教育方法の基礎理論とともに、それを実際の教育・保育の場面でどう活用するかを具体的に伝える。						
授業のねらい (到達目標)	<ul style="list-style-type: none"> ・教育方法に関わる基礎的理論を理解している。 ・社会において求められている資質・能力の捉えを理解した上で、資質・能力を育成するための教育方法について具体的に考察することができる。 ・ICT機器の活用や教材研究、授業形態等について基礎的な理論を理解し、授業における活用を保育・教育の具体的な場をイメージして考察することができる。 ・学習評価について基本的な理論を理解し、評価規準の設定等を行うことができる。 						
授業概要	この講義は、これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力をどのように学校教育において育成するかを考察することが目的である。そのためにこれまでの教育方法の変遷を踏まえ、新たな授業構成や授業展開及びICT活用を含めた教材の活用方法について基礎的理論を理解する。また、それらを授業において、どのように資質・能力の育成に結び付けていくのかを中期的に考察する。						
テキスト	豊岡短期大学「教育方法論」						
授業計画	第1回	教育方法の定義・意義と守備範囲					
	第2回	近代以降の幼児教育(保育)方法					
	第3回	幼児の理解と幼児教育(保育)の方法					
	第4回	幼稚園教育要領と幼保連携型認定こども園教育・保育要領					
	第5回	幼児教育(保育)内容と小学校の教育内容					
	第6回	教材・教具の理解と活用					
	第7回	教育技術の革新と情報機器の活用					
	第8回	授業展開の構想					
	第9回	特色ある授業実践					
	第10回	教育実践					
	第11回	授業分析と授業評価					
	第12回	教育方法の歴史的展開①(西欧の教育方法)					
	第13回	教育方法の歴史的展開②(近・現代の教育方法)					
	第14回	教育方法の歴史的展開③(日本の教育方法)					
	第15回	教育方法の課題と展望					
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度		総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠
				50%	25%	10%	15%
	上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する						

授業概要(シラバス)

新潟子ども医療専門学校

対象学科	こども発達学科	実施学年	2学年	開講期	通年(前期)
科目名	保育実習 I	授業形態	実習	単位数	4単位
担当教員	実習専任教員	実務経験の有無		○	
実務経験教員の経歴	保育所、幼稚園、認定こども園等の該当実習施設での勤務経験				
授業のねらい (到達目標)	<ul style="list-style-type: none"> ●実習生の姿勢態度 <ul style="list-style-type: none"> ・園や施設の方針を理解した上で適切に行動する。 ・目標を明確にし、向上心を持ち、実践的に学びを積むことができる ●知識、技能 <ul style="list-style-type: none"> ・保育内容に合った教材準備や環境構成ができる(部分実習及び責任実習準備の充実) ・生活・遊びを促すための援助(かかわり)ができる ●実習記録 <ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児とのかかわりから保育士の意図を感じ取り学びや気づきを書くことができる ・実習生のかかわりを詳細に記録し、省察することができる。 ・子どもの姿を場面で捉え、それを「乳幼児理解」につなげることができる。 ●指導案 <ul style="list-style-type: none"> ・指導案を書く意味が分かり、指導案を実践につなげることができる。(部分、責任) ●提出物 <ul style="list-style-type: none"> ・約束期日を守り、計画的にすすめる。 				
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ●子どもとのかかわりを深めながら観察し、保育理念や保育の課程をおさえ、保育士の職務を理解できるようにする ●授業等で得た知識や技能を最大限に活かし総合的な実践ができるようにする。 				
単位認定 ・ 評価方法	<p>実習園による評価(出勤状況・実習態度・職務理解・施設理解・幼児理解等の評価基準に基づき及び実習日誌を総合して評価をする。</p> <p>上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する</p>				

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども発達学科	実施学年	2学年	開講期	通年(前期)	
科目名	こどもの指導法「音楽表現」基礎演習Ⅱ	授業形態	演習	単位数	1単位	
担当教員	寺内めぐみ・市嶋融介	実務経験の有無	○			
実務経験教員の経歴	各講師それぞれが、音楽教室・自宅でのピアノ指導歴数十年、またソロの演奏活動、声楽(他楽器)の伴奏等の経験より、初心者からレベルの高い学生まで幅広い指導を行うことができ、「音楽による表現」へのアプローチ、コードによる伴奏付け等のアドバイスをを行っている。					
授業のねらい (到達目標)	音を間違え、途中で止まる、弾き直すなどのない演奏をする。 楽曲のテンポを正しくとり、音楽の流れを中断しないようにする。 抑揚のある表情豊かな演奏を心がけたとえ練習曲であっても美しい音楽作品になるように心がける。					
授業概要	こどもの指導法「音楽表現」基礎演習Ⅰで身に付けた演奏技術を更に向上させる。また、保育実習や幼稚園での教育実習に向けて実践的な取り組みを行う。					
テキスト	「こどもの指導法『音楽表現』」「ブルクミュラー25の練習曲」「保育の四季 幼児の歌110曲集」					
授業計画	第1回	中間試験課題(ソルフェージュ・バイエル・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。				
	第2回	中間試験課題(ソルフェージュ・バイエル・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。				
	第3回	中間試験課題(ソルフェージュ・バイエル・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。				
	第4回	中間試験課題(ソルフェージュ・バイエル・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。				
	第5回	中間試験課題(ソルフェージュ・バイエル・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。				
	第6回	中間試験課題(ソルフェージュ・バイエル・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。				
	第7回	中間試験課題(ソルフェージュ・バイエル・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。				
	第8回	中間試験				
	第9回	期末試験課題(ソルフェージュ・ブルクミュラー・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。				
	第10回	期末試験課題(ソルフェージュ・ブルクミュラー・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。				
	第11回	期末試験課題(ソルフェージュ・ブルクミュラー・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。				
	第12回	期末試験課題(ソルフェージュ・ブルクミュラー・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。				
	第13回	期末試験課題(ソルフェージュ・ブルクミュラー・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。				
	第14回	期末試験課題(ソルフェージュ・ブルクミュラー・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。				
	第15回	期末試験課題(ソルフェージュ・ブルクミュラー・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。				
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席	総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠
	平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度		50%	25%	10%	15%
上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する						

授業概要(シラバス)

新潟子ども医療専門学校

対象学科	子ども発達学科	実施学年	2学年	開講期	通年(後期)	
科目名	こどもの指導法「音楽表現」基礎演習Ⅱ	授業形態	演習	単位数	1単位	
担当教員	寺内めぐみ・市嶋融介	実務経験の有無	○			
実務経験教員の経歴	各講師それぞれが、音楽教室・自宅でのピアノ指導歴数十年、またソロの演奏活動、声楽(他楽器)の伴奏等の経験より、初心者からレベルの高い学生まで幅広い指導を行うことができ、「音楽による表現」へのアプローチ、コードによる伴奏付け等のアドバイスをを行っている。					
授業のねらい (到達目標)	音を間違え、途中で止まる、弾き直すなどのない演奏をする。 楽曲のテンポを正しくとり、音楽の流れを中断しないようにする。 抑揚のある表情豊かな演奏を心がけたとえ練習曲であっても美しい音楽作品になるように心がける。					
授業概要	こどもの指導法「音楽表現」基礎演習Ⅰで身に付けた演奏技術を更に向上させる。また、保育実習や幼稚園での教育実習に向けて実践的な取り組みを行う。					
テキスト	「こどもの指導法『音楽表現』」「ブルクミュラー25の練習曲」「保育の四季 幼児の歌110曲集」					
授業計画	第1回	中間試験課題(ソルフェージュ・バイエル・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。				
	第2回	中間試験課題(ソルフェージュ・バイエル・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。				
	第3回	中間試験課題(ソルフェージュ・バイエル・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。				
	第4回	中間試験課題(ソルフェージュ・バイエル・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。				
	第5回	中間試験課題(ソルフェージュ・バイエル・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。				
	第6回	中間試験課題(ソルフェージュ・バイエル・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。				
	第7回	中間試験課題(ソルフェージュ・バイエル・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。				
	第8回	中間試験				
	第9回	期末試験課題(ソルフェージュ・ブルクミュラー・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。				
	第10回	期末試験課題(ソルフェージュ・ブルクミュラー・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。				
	第11回	期末試験課題(ソルフェージュ・ブルクミュラー・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。				
	第12回	期末試験課題(ソルフェージュ・ブルクミュラー・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。				
	第13回	期末試験課題(ソルフェージュ・ブルクミュラー・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。				
	第14回	期末試験課題(ソルフェージュ・ブルクミュラー・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。				
	第15回	期末試験課題(ソルフェージュ・ブルクミュラー・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。				
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席	総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠
	平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度		50%	25%	10%	15%
上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する						

授業概要(シラバス)

新潟子ども医療専門学校

対象学科	こども発達学科	実施学年	2学年	開講期	前期		
科目名	表現とこどもの運動	授業形態	講義	単位数	1単位		
担当教員	山田 すみ江	実務経験の有無		○			
実務経験教員の経歴	公立保育園、私立幼稚園等、運動指導の経験を生かし、現場で求められる保育者の資質に基づいて実践的に指導を行う						
授業のねらい (到達目標)	運動遊びにおける表現や心身の健康など、援助者として発達状況に応じた援助の在り方を理解し、各種の問題に取り組むことができる。						
授業概要	こどもの表現遊びや運動が年齢に応じて展開されていくことを理解し、表現遊び運動の実践例からイメージを膨らませ、安全に楽しく表現遊びが展開できる知識及び実践力を理論的に深める。						
テキスト	表現とこどもの運動						
授業計画	第1回	表現とは					
	第2回	運動遊びのねらい					
	第3回	運動遊びの援助について					
	第4回	こどもの発達と運動について					
	第5回	身体・形態・機能・こころの発育発達					
	第6回	こどもと運動					
	第7回	運動遊びの基本的な動き					
	第8回	基本運動(歩・走・跳・投・押・引・転・登)					
	第9回	運動表現の要素(調整力・身体認知・空間認識)					
	第10回	身体コントロール能力の向上					
	第11回	調整力中心の体づくり運動					
	第12回	音・色などの刺激に対応する運動					
	第13回	表現運動実施の教育的意義					
	第14回	表現運動(運動遊び)実施上の留意点					
	第15回	表現運動(運動遊び)における安全指導					
単位認定 ・ 評価方法	中間レポート 期末試験の実施 授業時数の2/3 以上の出席 平常評価:授業態度、提出物等		総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠
				50%	25%	10%	15%
	上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する						

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども発達学科	実施学年	2学年	開講期	前期		
科目名	こどもと造形	授業形態	演習	単位数	1単位		
担当教員	渡邊 恵美	実務経験の有無		○			
実務経験教員の経歴	高等学校美術科非常勤講師						
授業のねらい (到達目標)	乳幼児造形教育の指導・援助者として、必要な形や色や質感等の基礎的な知識及び技能について理解ができる。 えがく、つくる、造形あそびの領域の製作を通して、基礎的な知識及び技能について習得できる。 教材研究及び発表を行うことで思考力や表現力を高めることができる。						
授業概要	幼児造形の指導・援助者として形や色等の造形の基本的な理論を学習しながら、実際にそれらについてテーマをもとに色彩分割及び構成学習を行う。また、具体的な描写によって観察力を養い、合わせて用具や描画材の特性を利用してさまざまな表現技法から想像力を高め、体験的に理解する。さらに、さまざまな素材をもとに、それらの特性を活かして創意工夫しながら製作を展開し、平面及び立体における造形教育に必要な知識や技術を身につける。						
テキスト	造形表現論(豊岡短期大学)						
授業計画	第1回	幼児造形教育の重要性と研究の視点について					
	第2回	幼児造形(表現)の特徴・領域・道筋について					
	第3回	えがく領域に伴う製作I(えがく活動における指導・援助と実際)					
	第4回	えがく領域に伴う製作I(えがく活動における指導・援助と実際)					
	第5回	つくる領域に伴う製作I(つくる活動における指導・援助と実際)					
	第6回	つくる領域に伴う製作I(つくる活動における指導・援助と実際)					
	第7回	造形あそびの領域に伴う製作III(造形遊びにおける指導・援助と実際)					
	第8回	造形あそびの領域に伴う製作III(造形遊びにおける指導・援助と実際)					
	第9回	作品の研究及び発表					
	第10回	作品の研究及び発表					
	第11回	作品の研究及び発表					
	第12回	作品の研究及び発表					
	第13回	作品の研究及び発表					
	第14回	幼児造形教育の課題について					
	第15回	まとめ					
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席		総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠
平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度		50%		25%	10%	15%	
上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する							

授業概要(シラバス)

新潟子ども医療専門学校

対象学科	子ども発達学科	実施学年	2学年	開講期	後期		
科目名	社会的養護Ⅱ	授業形態	演習	単位数	1単位		
担当教員	渡邊 みゆき	実務経験の有無		○			
実務経験教員の経歴	児童養護施設での現場経験から、施設で生活する子どもたちの実際の姿や支援内容について実践的な指導を行う。						
授業のねらい (到達目標)	「社会的養護Ⅰ」で学んだ社会的養護の基礎的内容について具体的に理解する。 施設養護及び家庭養護の実際について理解する。 社会的養護における虐待防止と家庭支援について理解する。						
授業概要	スクーリングによる体験的な授業で、主としてコミュニケーション力、リーダーシップなど必要な技術とネットワーク運営のための技術を身につける。						
テキスト							
授業計画	第1回	オリエンテーション					
	第2回	社会的養護の定義と理念					
	第3回	求められる資質や倫理					
	第4回	社会的養護の体系、施設養護の体系					
	第5回	乳児院(演習)					
	第6回	母子生活支援施設(演習)					
	第7回	障害児入所施設(演習)					
	第8回	児童養護施設(演習)					
	第9回	児童自立支援施設(演習)					
	第10回	児童心理治療施設(演習)					
	第11回	家庭養護・家庭的養護の体系					
	第12回	里親(演習)					
	第13回	地域小規模児童養護施設(演習)					
	第14回	社会的養護の現状と課題					
	第15回	まとめ					
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度		総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠
				50%	25%	10%	15%
	上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する						

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども発達学科	実施学年	2学年	開講期	後期		
科目名	こどもの食と栄養	授業形態	演習	単位数	2単位		
担当教員	萱場 佳代	実務経験の有無	○				
実務経験教員の経歴	企業での調乳・離乳食指導、特定保健指導、母親教室、料理教室講師 新潟市 母子保健事業、特定保健指導、学校等での出張授業講師 他						
授業のねらい (到達目標)	子どもの身体の特徴を理解し、小児期に必要な栄養・食生活の重要性と、それぞれの時期に応じた食事の知識を習得し、食育につなげていけるものとする。						
授業概要	基本的な栄養・食生活の知識を学ぶ。 離乳食から幼児期への子どもの発育発達と、それぞれの時期に応じた栄養補給、食事の知識を学ぶ。 食育の重要性を学び、子どもたちへの伝えかたを考える。 実際に調整粉乳、離乳食、幼児食の調理を行い、形態や味を確認する。 乳幼児期における食物アレルギーについて学ぶ。						
テキスト	「こどもの食と栄養」豊岡短期大学						
授業計画	第1回	栄養に関する基礎知識(五大栄養素の体内での働き)					
	第2回	ビタミン・ミネラルの種類・働き・食品					
	第3回	母乳栄養(初乳・長所・短所・母乳不足)					
	第4回	人工栄養(調整粉乳・フォローアップミルク・特殊ミルク)					
	第5回	離乳の定義、離乳食の進め方と注意点					
	第6回	幼児期の栄養・食生活					
	第7回	間食の必要性と与え方					
	第8回	幼児期の栄養・食生活上の問題と対応					
	第9回	乳幼児期の食物アレルギー					
	第10回	食育の必要性(ねらいと内容)					
	第11回	食育の実践					
	第12回	実習(調乳・離乳食の調理)					
	第13回	実習(幼児食の調理)					
	第14回	実習(間食の調理)					
	第15回	まとめ 期末試験					
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度		総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠
				50%	25%	10%	15%
	上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する						

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学

対象学科	こども発達学科	実施学年	2学年	開講期	後期	
科目名	障害児保育	授業形態	講義	単位数	2単位	
担当教員	渡邊 みゆき	実務経験の有無	○			
実務経験教員の経歴	児童福祉施設での障害児支援の経験をもとに、障害の概念や特性、個人支援方法をふまえて教科指導を行う。					
授業のねらい (到達目標)	1.障害児保育を支える理念が説明できる。 2.個々の障害の特性・心身の発達に応じた援助や配慮を理解する。 3.家庭支援や関係機関との連携・協働について説明できる。 4.障害児保育の現状と課題について学ぶ。					
授業概要	障害児保育の歴史と障害の特性について学ぶ。個々の障害特性を理解し、インクルーシブ保育を実践する視点から保育者として必要な力を身に付ける。					
テキスト	「障害児保育」(豊岡短期大学)					
授業計画	第1回	オリエンテーション				
	第2回	障害の概念				
	第3回	障害児保育の方法				
	第4回	障害児保育のあゆみ				
	第5回	肢体不自由児への支援				
	第6回	視覚障害児への支援				
	第7回	聴覚障害児への支援				
	第8回	知的障害児への支援				
	第9回	重症心身障害児・病弱・身体虚弱児への支援				
	第10回	発達障害児への支援①				
	第11回	発達障害児への支援②				
	第12回	障害のある子どもの地域社会への参加、合理的配慮①				
	第13回	障害のある子どもの地域社会への参加、合理的配慮②				
	第14回	障害のある子どもの家族の理解と支援				
	第15回	まとめ				
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度 上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する	総合評価算出基準	期末 50%	中間 25%	平常 10%	出欠 15%

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども発達学科	実施学年	2学年	開講期	後期	
科目名	こどもの理解と援助	授業形態	演習	単位数	1単位	
担当教員	曾根原 和明	実務経験の有無	○			
実務経験教員の経歴	小学校教員として12年間勤務し、学級担任を務めてきた。教育現場で培った子どもの発達理解に関する知見を基に、発達段階に応じた子ども理解の視点と支援方法を具体的に伝える。					
授業のねらい (到達目標)	本授業の目的は子ども理解を深めるための理論と方法を理解することである。					
授業概要	私たちはどのようにしてこころを理解するのだろうか？本授業では、発達心理学や教育心理学の知見をベースに子どものこころを理解するための方法について学ぶ。また、子どものこころの理解を通じた教育や保育の在り方について考察する。					
テキスト	指定なし(授業資料を配布する)					
授業計画	第1回	心とは何か？				
	第2回	子ども理解の意義				
	第3回	子ども理解の視点①				
	第4回	子ども理解の視点②				
	第5回	子ども理解の方法①～観察・記録・省察・評価～				
	第6回	子ども理解の方法②～職員間の情報共有～				
	第7回	子ども理解の方法③～保護者との情報共有～				
	第8回	発達課題に応じた援助と関わり				
	第9回	特別な配慮を要する子どもの理解と援助				
	第10回	発達の連続性と就学への支援				
	第11回	子ども理解をもとにした援助の実践①～計画・立案～				
	第12回	子ども理解をもとにした援助の実践②～計画・立案～				
	第13回	子ども理解をもとにした援助の実践③～発表・共有～				
	第14回	子ども理解をもとにした援助の実践④～発表・共有～				
	第15回	総まとめ				
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度 上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する	総合評価 算出基準	期末 50%	中間 25%	平常 10%	出欠 15%

授業概要(シラバス)

新潟子ども医療専門学校

対象学科	子ども発達学科	実施学年	2学年	開講期	前期		
科目名	環境論	授業形態	講義	単位数	1単位		
担当教員	板垣 裕	実務経験の有無		○			
実務経験教員の経歴	幼児教育施設での勤務経験を活かし、実践的な授業を行う。						
授業のねらい (到達目標)	1. 領域「環境」のねらいと内容を理解する。 2. 子どもを取り巻く様々な環境を理解し、関心を持つ。 3. 「環境を通して行う教育」を理解し、意図ある環境構成の実践を行う。						
授業概要	現在の子どもを取り巻く環境の変化について学びながら、保育に必要な基礎専門知識を得る。 子どもが発育・発達における環境とのかかわりの重要性を学びながら、保育の環境や環境構成のあり方について理解し、校外学習を通して環境構成の実践を行う。						
テキスト	新保育ライブラリ 保育の内容・方法を知る 環境						
授業計画	第1回	環境とは何か？ 環境の定義 子どもを取り巻く環境の変化を知る					
	第2回	身近な環境について考える①少子化					
	第3回	身近な環境について考える②メディア					
	第4回	領域「環境」の理解 環境を通して行う保育 教師の願いを込める					
	第5回	環境の構成 校外学習計画①					
	第6回	校外学習①地域探検					
	第7回	環境の構成 校外学習計画②					
	第8回	環境の構成 校外学習計画②					
	第9回	環境の構成 校外学習計画②					
	第10回	校外学習②					
	第11回	校外学習②					
	第12回	校外学習②					
	第13回	校外学習②					
	第14回	まとめ・振り返り①					
	第15回	まとめ・振り返り②					
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価：課題提出物の状況・確認テスト・授業態度		総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠
		50%		25%	10%	15%	
上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する							

授業概要(シラバス)

新潟子ども医療専門学校

対象学科	こども発達学科	実施学年	2学年	開講期	後期		
科目名	こどもの指導法「環境」	授業形態	演習	単位数	1単位		
担当教員	板垣 裕	実務経験の有無	○				
実務経験教員の経歴	幼児教育施設での勤務経験を活かし、実践的な授業を行う。						
授業のねらい (到達目標)	1. 領域「環境」のねらいと内容を理解する。 2. 子どもを取り巻く様々な環境を理解し、関心を持つ。 3. 保育者の役割を常に考え、保育実践力を身につける。						
授業概要	現在の子どもを取り巻く環境の変化について学びながら、保育に必要な基礎専門知識を得る。 子どもが発育・発達における環境とのかかわりの重要性を学びながら、保育の環境や環境構成のあり方について理解する。						
テキスト	新保育ライブラリ 保育の内容・方法を知る 環境						
授業計画	第1回	環境とは何か？ 環境の定義					
	第2回	環境とは何か？ 子どもを取り巻く環境の変化を知る					
	第3回	領域「環境」の理解 ねらいと内容					
	第4回	領域「環境」の理解 環境を通して行う保育					
	第5回	環境の構成 教師の願いを込める					
	第6回	環境の構成 身近な環境の構成					
	第7回	環境の構成 季節や地域の行事					
	第8回	環境の構成 好奇心・探究心を育てる環境					
	第9回	園での実際の環境構成(映像学習)①					
	第10回	園での実際の環境構成(映像学習)②					
	第11回	園での実際の環境構成(映像学習)③					
	第12回	保育者の存在 人的環境の重要性					
	第13回	標識・文字、数量・図形との出会い					
	第14回	ねらいを達成するための環境構成の工夫(校外学習計画)					
	第15回	校外学習					
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度		総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠
				50%	25%	10%	15%
上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する							

授業概要(シラバス)

新潟子ども医療専門学校

対象学科	こども発達学科	実施学年	2学年	開講期	前期		
科目名	こどもの指導法「言語表現」	授業形態	演習	単位数	1単位		
担当教員	金子 直也	実務経験の有無	○				
実務経験教員の経歴	新潟市の公立保育士として7年間勤務。子どもの主体性を育む関わり、実践的な保育技術、子ども一人一人の発達を捉えた計画作成、子どもの姿に合わせた専門知識の修得、修得した知識を基にした環境の見直しや保育の実践を行う。						
授業のねらい (到達目標)	<ul style="list-style-type: none"> ・保育内容の領域「言葉」のねらい及び内容を理解する。 ・幼児の発達や学びの過程を理解するとともに、領域「言葉」に関わる具体的な指導場面を想定した模擬保育の実施とその振り返りを通して、基本的知識と保育実践力を身に付ける。 						
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な児童文化財に触れ、その活用方法や留意点について理解し実践する。 ・自身の保育観や教育的価値に沿った絵本選びを行い、選定した絵本の読み聞かせを通して、実践的な技術を習得する。 ・自己紹介絵本制作を通して、児童文化財への理解を深めると共に、表現力や制作技術の向上を図る。 						
テキスト	ことばと表現力を育む児童文化〈第2版〉 萌文書林						
授業計画	第1回	授業の目的と概要 領域「言葉」のねらい及び内容の確認					
	第2回	子どもの言葉を育む様々な児童文化財 様々な絵本の種類、子どもの発達に合わせた絵本の選び方					
	第3回	図書室での教材研究 領域「言葉」を中心とした絵本の読み聞かせの指導案作成					
	第4回	図書室での教材研究 領域「言葉」を中心とした絵本の読み聞かせの指導案作成					
	第5回	図書室での教材研究 領域「言葉」を中心とした絵本の読み聞かせの指導案作成					
	第6回	絵本の読み聞かせ時の留意点 絵本の読み聞かせを中心とした模擬保育と振り返り					
	第7回	絵本の読み聞かせを中心とした模擬保育と振り返り 自己紹介絵本の作成					
	第8回	絵本の読み聞かせを中心とした模擬保育と振り返り 自己紹介絵本の作成					
	第9回	絵本の読み聞かせを中心とした模擬保育と振り返り 様々な言葉遊びとその留意点					
	第10回	絵本の読み聞かせを中心とした模擬保育と振り返り 自己紹介絵本の作成					
	第11回	絵本の読み聞かせを中心とした模擬保育と振り返り 自己紹介絵本の作成					
	第12回	絵本の読み聞かせを中心とした模擬保育と振り返り 様々な遊び歌やわらべ歌とその留意点					
	第13回	絵本の読み聞かせを中心とした模擬保育と振り返り 自己紹介絵本の作成					
	第14回	絵本の読み聞かせを中心とした模擬保育と振り返り 自己紹介絵本の作成					
	第15回	まとめ 児童文化財を生かした様々な保育実践・保育の展開					
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価：課題提出物の状況・確認テスト・授業態度		総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠
		50%		25%	10%	15%	
上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する							

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども発達学科	実施学年	2学年	開講期	前期	
科目名	こどもの指導法「造形表現」	授業形態	演習	単位数	1単位	
担当教員	渡邊 恵美	実務経験の有無	○			
実務経験教員の経歴	高等学校美術科非常勤講師					
授業のねらい (到達目標)	1. 保育指導法「表現」のねらいと内容等に基づいた保育の基本について理解できる。 2. 乳幼児の表現活動の大切さと発達段階を踏まえた造形的な表現の特徴が理解できる。 3. 乳幼児の造形表現活動の展開と援助のあり方を学び、保育者としての知識と技術が習得できる。					
授業概要	乳幼児の表現活動の大切さと発達過程や造形的な表現の特徴を理解する学習をする。さらに材料・用具、手法をもとに「えがく」「つくる」「造形あそび」などの題材や環境構成、援助のあり方についての知識と製作体験とを関連づけながら学習を深める。					
テキスト	造形表現論(豊岡短期大学)					
授業計画	第1回	幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園 教育・保育要領における「表現」領域及び小学校との連携(「図画工作」の学習指導要領)				
	第2回	造形教育の思想と指導法の推移及びこどもの発達段階における表現の特徴				
	第3回	こどもの発達段階における表現の指導・援助(指導案)と評価				
	第4回	こどもの発達段階における表現の指導・援助(指導案)と評価				
	第5回	教材研究を伴う製作I(えがく)				
	第6回	教材研究を伴う製作I(えがく)				
	第7回	教材研究を伴う製作I(つくる)				
	第8回	教材研究を伴う製作I(つくる)				
	第9回	教材研究を伴う製作Ⅲ(造形あそび)				
	第10回	教材研究を伴う製作Ⅲ(造形あそび)				
	第11回	実践的な指導法(模擬保育等)の学習(えがく・つくる・造形あそび)				
	第12回	実践的な指導法(模擬保育等)の学習(えがく・つくる・造形あそび)				
	第13回	実践的な指導法(模擬保育等)の学習(えがく・つくる・造形あそび)				
	第14回	えがく、つくる、造形あそびの保育展開(指導法)と情報機器及び教材の活用まとめ				
	第15回	えがく、つくる、造形あそびの保育展開(指導法)と情報機器及び教材の活用まとめ				
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度	総合評価 算出基準	期末 50%	中間 25%	平常 10%	出欠 15%
上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する						

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども発達学科	実施学年	2学年	開講期	後期		
科目名	特別支援教育	授業形態	講義	単位数	1単位		
担当教員	曾根原 和明	実務経験の有無	○				
実務経験教員の経歴	小学校教員として12年間勤務し、学級担任として通常の学級に在籍する多様な児童に対し、発達や学習、行動面での支援に取り組んできた。校内の特別支援教育コーディネーターや支援員、保護者、専門機関と連携しながら、個別の教育的ニーズに応じた支援を計画・実践してきた経験を有する。こうした実務経験を踏まえ、本授業では、特別支援教育の理念や法制度を理解した上で、現場における具体的支援の在り方について、実践的に伝える。						
授業のねらい (到達目標)	<ol style="list-style-type: none"> 1 特別支援教育の理念・法制度(学校教育法施行令、障害者差別解消法など)を理解し、その意義を自ら説明できる。 2 発達障害、軽度知的障害、視覚・聴覚障害、肢体不自由、病弱等の多様な障害特性と教育的ニーズを科学的根拠に基づいて分析できる。 3 個別の教育支援計画(IEP/個別の指導計画)を立案・評価し、授業や学校生活に具体的に適用する力を身に付ける。 4 教育チーム(クラス担任、特別支援教育コーディネーター、医療・福祉専門職等)と連携し、組織的・継続的な支援体制を構築できる。 5 保護者や地域支援機関と協働し、家庭・地域ぐるみで子どもを支援する実践的コミュニケーションスキルを修得する。 6 現代的課題(インクルーシブ教育、合理的配慮、ICT活用など)を踏まえ、子どもの自己決定と学びの質を高める方策を提案できる。 						
授業概要	本講義は、全8回で特別支援教育の基礎から実践までを体系的に学ぶ。第1回では特別支援教育の定義と歴史的背景を概観し、第2・3回で発達障害や各種障害の特性を理解する。第4回では子どものアセスメント結果に基づく支援計画の作成方法を扱い、第5回は学級・学校・地域が一体となった教育チームによる組織的支援のデザインを検討する。第6回では特別支援教育コーディネーターの役割と校内コンサルテーションの実際を扱い、第7回で保護者支援と家庭・地域連携の具体的手法を学ぶ。最終回は現代の子どもたちが抱える特別な教育的ニーズを多角的に考察し、合理的配慮やインクルーシブ教育の今後の展望を討議する。						
テキスト	「特別支援教育」(豊岡短期大学)						
授業計画	第1回	特別支援教育とは					
	第2回	発達障害や軽度知的障害をも子どもの特性					
	第3回	視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱等を含む様々な障害のある子どもの特性					
	第4回	子どものニーズに合わせた支援					
	第5回	教育チームによる組織的支援					
	第6回	特別支援教育コーディネーター					
	第7回	保護者・家庭支援と連携					
	第8回	今、子ども達の特別な教育的ニーズを考える					
	第9回						
	第10回						
	第11回						
	第12回						
	第13回						
	第14回						
	第15回						
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施	授業時数の2/3以上の出席	総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠
	平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度			50%	25%	10%	15%
	上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する						

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども発達学科	実施学年	2学年	開講期	通年(後期)
科目名	実習指導ⅡⅢ	授業形態	演習	単位数	1単位
担当教員	熊倉 美和	実務経験の有無	○		
実務経験教員の経歴	保育園・幼稚園・認定こども園での実習経験を活かし、実践的な指導を行う。				
授業のねらい (到達目標)	<ul style="list-style-type: none"> ・実習に向けての基本的な心構えを理解したり、幼稚園実習について理解する。 ・日誌の書き方、指導案の立て方を確認し、多方面から「活動」を考える。 ・実習の振り返りをその都度行い、課題や反省点を明確にし次の実習に繋げる。 ・見通しをもち、臨機応変に動く力や子ども達の前で演じる(伝える)力を身につける。 				
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・実習に向け、マニュアルやファイル等を使い基本的な事を確認する。 ・振り返りを行い、反省 課題を見つけながら次の実習に繋がるようにする。 ・部分実習指導案、実習日誌など必要な事を個々に合わせて進める ・状況に合わせて園・施設の見学を行い実践的保育の体験から実習に繋げる 				
テキスト	実習のしおり・保育者養成実習ガイド・発達と保育(乳児・幼児)・配布プリント				
授業計画	第1回	施設(成人就労支援・生活介護)見学の実施			
	第2回	施設(成人就労支援・生活介護)見学の実施			
	第3回	施設(児童発達支援・養護施設など)見学の実施			
	第4回	施設(児童発達支援・養護施設など)見学の実施			
	第5回	見学をもとに部分実習指導案を作成する めあての作成・オリテの指導			
	第6回	見学をもとに部分実習指導案を作成する めあての作成・オリテの指導			
	第7回	施設実習の振り返りをして成果を共有する			
	第8回	実習事後レポートの作成			
	第9回	保育実習指導ⅡⅢ事前レポートの作成			
	第10回	模擬保育の実施			
	第11回	模擬保育の実施			
	第12回	模擬保育の実施			
	第13回	様々な保育形体の園見学			
	第14回	様々な保育形体の園見学			
	第15回	こどもっと実習(4日間・保育参加し日誌を毎日書く。実習終了後提出)			
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度	総合評価 算出基準	期末 50% 中間 25% 平常 10% 出欠 15%	上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する	

授業概要(シラバス)

新潟子ども医療専門学校

対象学科	子ども発達学科	実施学年	2学年	開講期	通年(前期)		
科目名	実習指導Ⅱ	授業形態	演習	単位数	1単位		
担当教員	熊倉 美和	実務経験の有無		○			
実務経験教員の経歴	保育園・幼稚園・認定子ども園での勤務経験を活かし、実践的な授業を行う。						
授業のねらい (到達目標)	<ul style="list-style-type: none"> ・実習に向けての基本的な心構えを理解したり、施設について理解する。 ・日誌の書き方、指導案の立て方を確認して自分なりに立てる。 ・実習の振り返りをして課題や反省点をみつけ次に繋げる。 ・見通しをもち場面に対応して動く力や子ども達の前で演じる(伝える)力を身につける。 						
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・実習に向け、マニュアルやファイル等を使い基本的な事を確認する。 ・振り返りを行い、反省 課題を見つけながら次の実習に繋がるようにする。 ・部分実習指導案、実習日誌など必要な事を個々に合わせて進める ・状況に合わせて園・施設の見学を行い実践的保育の体験から実習に繋げる 						
テキスト	実習のしおり・保育者養成実習ガイド・発達と保育(乳児・幼児)・配布プリント						
授業計画	第1回	保育実習の意義や目的を確認し、実習のめあてを作成する					
	第2回	オリテの指導・実習ファイル作成					
	第3回	劇公演 ラファエル子ども園					
	第4回	劇公演 ラファエル子ども園					
	第5回	日誌の書き方を確認する					
	第6回	日誌の書き方を確認する					
	第7回	部分実習指導案素案作成・教材研究					
	第8回	日誌の書き方を確認し、自分で書いてみる					
	第9回	日誌の書き方を確認し、自分で書いてみる。					
	第10回	・部分実習指導案素案作成・外部実習に向けてしおりの確認					
	第11回	保育所実習の振り返りをし、成果の共有をする					
	第12回	単位確認試験にむけて準備をする					
	第13回	単位確認試験の実施					
	第14回	施設見学にむけて準備をする・指導案(一斉保育と自由保育のちがいふまえて)を確認する					
	第15回	施設見学にむけて準備をする・指導案(一斉保育と自由保育のちがいふまえて)を確認する					
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席		総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠
	平常評価: 課題提出物の状況・確認テスト・授業態度			50%	25%	10%	15%
上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する							

授業概要(シラバス)

新潟子ども医療専門学校

対象学科	子ども発達学科	実施学年	2学年	開講期	通年(後期)									
科目名	情報処理Ⅱ	授業形態	演習	単位数	2単位									
担当教員	長谷川 直子	実務経験の有無		○										
実務経験教員の経歴	民間企業のパソコン部門でのインストラクター業務、また、人材派遣会社の研修部門でのパソコン研修指導およびパソコンヘルプデスクを担当。初心者から上級者まで幅広い実践的な技術指導を行う。ヘルプデスクでは、派遣社員のパソコン実務に関する質疑応答を電話によりリアルタイムで行う。													
授業のねらい (到達目標)	幼稚園や保育園などの教育機関において、名簿の作成ほか表作成からデータベースの処理が必要となるデータを作成する際に、Excelの知識と技術が必要となる。本教科では、Excelを基礎から学習し活用できる能力を身につける。													
授業概要	Excel2019を用いて表の作成、データベース機能、種々の関数を用いた計算、各種グラフの作成など、基礎知識と活用方法を習得し、技術向上を図る。 MOS Excel2019 検定合格を目指す。													
テキスト	Excel2019セミナーテキスト基礎・Excel2019対策テキスト&問題集													
授業計画	第1回	テーブルとテーブルのデータの管理1												
	第2回	テーブルとテーブルのデータの管理2												
	第3回	テーブルとテーブルのデータの管理3												
	第4回	グラフの管理1												
	第5回	グラフの管理2												
	第6回	模擬1(演習)												
	第7回	模擬1(テスト)												
	第8回	模擬2(演習)												
	第9回	模擬2(テスト)												
	第10回	模擬3(演習)												
	第11回	模擬3(テスト)												
	第12回	模擬4(演習)												
	第13回	模擬4(テスト)												
	第14回	模擬5(演習)												
	第15回	模擬5(テスト)												
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度		総合評価 算出基準	<table border="1"> <tr> <th>期末</th> <th>中間</th> <th>平常</th> <th>出欠</th> </tr> <tr> <td>50%</td> <td>25%</td> <td>10%</td> <td>15%</td> </tr> </table>	期末	中間	平常	出欠	50%	25%	10%	15%	上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する	
期末	中間	平常	出欠											
50%	25%	10%	15%											

授業概要(シラバス)

新潟子ども医療専門学校

対象学科	子ども発達学科	実施学年	2学年	開講期	通年(前期)		
科目名	情報処理Ⅱ	授業形態	演習	単位数	2単位		
担当教員	長谷川 直子	実務経験の有無		○			
実務経験教員の経歴	民間企業のパソコン部門でのインストラクター業務、また、人材派遣会社の研修部門でのパソコン研修指導およびパソコンヘルプデスクを担当。初心者から上級者まで幅広い実践的な技術指導を行う。ヘルプデスクでは、派遣社員のパソコン実務に関する質疑応答を電話によりリアルタイムで行う。						
授業のねらい (到達目標)	幼稚園や保育園などの教育機関において、名簿の作成ほか表作成からデータベースの処理が必要となるデータを作成する際に、Excelの知識と技術が必要となる。本教科では、Excelを基礎から学習し活用できる能力を身につける。						
授業概要	Excel2019を用いて表の作成、データベース機能、種々の関数を用いた計算、各種グラフの作成など、基礎知識と活用方法を習得し、技術向上を図る。 MOS Excel2019 検定合格を目指す。						
テキスト	Excel2019セミナーテキスト基礎・Excel2019対策テキスト&問題集						
授業計画	第1回	本演習のガイダンス、ネットワーク接続、プリンタ設定 Excelの基本操作					
	第2回	表の作成					
	第3回	四則演算と関数1					
	第4回	四則演算と関数2					
	第5回	表の編集1					
	第6回	表の編集2					
	第7回	ワークシートやブックの管理1					
	第8回	ワークシートやブックの管理2					
	第9回	ワークシートやブックの管理3					
	第10回	セルやセル範囲のデータ管理1					
	第11回	セルやセル範囲のデータ管理2					
	第12回	セルやセル範囲のデータ管理3					
	第13回	数式や関数を使用した演算の実行1					
	第14回	数式や関数を使用した演算の実行2					
	第15回	数式や関数を使用した演算の実行3					
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度		総合評価 算出基準	期末 50%	中間 25%	平常 10%	出欠 15%
上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する							

授業概要(シラバス)

新潟子ども医療専門学校

対象学科	子ども発達学科	実施学年	2学年	開講期	通年(前期)		
科目名	教材研究Ⅱ	授業形態	演習	単位数	2単位		
担当教員	阿部裕子	実務経験の有無		○			
実務経験教員の経歴	公立、私立保育園及び認定子ども園での24年の勤務経験から、現場で役立つ保育教材全般について実践的な授業を行う						
授業のねらい (到達目標)	素材の活かし方・制作手順の要領を良くする方法など、学び合いながら習得していく 実際に子どもたちとする時の配慮点などを考えながら、制作技術やあそびの習得を目指す						
授業概要	素材の活かし方・制作手順の要領を良くする方法など、実際にやりながら学び合う 様々な科学あそび・自然関連について体験し考える 年齢別の対象を配慮しながら、丁寧にグッズを作ったり演じたりして見せ合う 実習に備え、あそびのレパートリーを増やし使える手あそび等も充実させていく						
テキスト	「すきま時間あそび107」&必要に応じてプリント						
授業計画	第1回	校外学習(東公園) 春を感じる・シャボン玉あそびをする					
	第2回	前年度に作成途中だった「くつしたパペット」を完成させる					
	第3回	制作の教材研究 様々な素材や制作の裏技について理解を深めるとともに、子どもたちと制作をする時の留意点などを確認する 例:同じ形を沢山作る時の工夫など					
	第4回	手袋シアター制作					
	第5回	〃					
	第6回	〃					
	第7回	仕上げと発表					
	第8回	前年度に完成させたパネルシアターの発表と改善点を話し合う					
	第9回	乳児・幼児年齢別グッズ制作 作りたいものを考えて作る (カードシアター、スケッチブック、ペープサートなど題材自由)					
	第10回	〃					
	第11回	〃					
	第12回	完成したものを実演し合う					
	第13回	テキスト「すきま時間あそび107」より素話他					
	第14回	〃					
	第15回	施設実習について					
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度		総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠
				50%	25%	10%	15%
上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する							

授業概要(シラバス)

新潟子ども医療専門学校

対象学科	子ども発達学科	実施学年	2学年	開講期	通年(後期)		
科目名	教材研究Ⅱ	授業形態	演習	単位数	2単位		
担当教員	阿部裕子	実務経験の有無		○			
実務経験教員の経歴	公立、私立保育園及び認定子ども園での24年の勤務経験から、現場で役立つ保育教材全般について実践的な授業を行う						
授業のねらい (到達目標)	様々な保育教材への理解を深める 子どもたちと楽しむために必要な技術を学び合う						
授業概要	あそび歌・科学あそび・伝承遊びグッズ制作など、色々な子どもとの遊びについて学ぶ 実際に子ども達と遊ぶ為の方法や配慮について年齢別に考えたり実践して見せ合ったりする						
テキスト	「すきま時間あそび107」&必要に応じてプリント						
授業計画	第1回	小麦粉粘土・スライム・科学あそび系を順次学ぶ 実際にやってみる中で配慮点など見つけていく					
	第2回	〃					
	第3回	保育グッズを作ったり使う際の練習をし、見せ合う					
	第4回	〃					
	第5回	〃					
	第6回	体操やダンスの振付をイラストで見て覚え、グループで練習をしマスターする					
	第7回	子どもたちへの教え方も考え、他グループに実際に教えて一緒にやってみる					
	第8回	作りたいパペットを決め パペット人形制作開始					
	第9回	制作					
	第10回	〃					
	第11回	完成したパペットでミニ人形劇					
	第12回	クリスマス関連のあそびとグッズ制作を楽しむ					
	第13回	伝承遊びを学ぶ					
	第14回	毛糸系など、子どもも出来る冬の制作を考える					
	第15回	〃					
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度		総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠
				50%	25%	10%	15%
	上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する						